

はるかななる日々

—四條殿の史跡・文化財—



発行にあたって

四條畷市長 森本 稔

四條畷には、豊かな縁があります。また、土の中には貴重な文化財（先人の遺産）が限りなく埋蔵されており、一筋の農道にも長い歴史が刻まれています。

「ローマは、一日にして成らず」私達の四條畷も、数千年にわたる先人の努力によって築かれてきました。その跡は、市内の各所に残されており、最近の発掘調査によってさらに明らかになつて参りました。

私達はこの恵まれた歴史と伝統を受け継いでいますが、今まで以上に「豊かな伝統を守り、新しい文化を育てる」町づくりをして次代に伝える責任があります。

そのためには、「ふるさと四條畷」として、改めて先人の跡を見直して頂くことも、大きな意義があると考え、市内に所在する遺跡や石造物等の文化財のあらましを、わかりやすい解説と写真を中心にしてこの小冊子を発行いたしました。

本冊子の作成については、四條畷を第一の故郷として愛して

おられる郷土史家山口 博先生のご協力を頂きました。厚く感謝申し上げるとともに、この小冊子が四條畷を理解して頂くようになりますが、文化財愛護と認識を深めて頂く一助になれば幸いです。

もくじ

一、遺跡のあらまし（I）

1	岡山遺跡（含 A・讃岐川床 B・更良岡山古墳 C・讃良寺跡）	1
2	砂谷遺跡	2
3	奈良田遺跡	3
4	坪井遺跡	4
5	忍ヶ丘駅前遺跡	5
6	岡山兩遺跡	6
7	南山下遺跡	7
8	奈良井遺跡	8
9	中野遺跡	9
10	雁屋遺跡	10
11	清瀧古墳群	11
12	止法寺跡	12
13	上清瀧遺跡	13
14	長谷遺跡	14

二、遺跡のあらまし（II）

ア	北口遺跡	15
イ	讃良郡条里遺構	16
ウ	四條畷小学校内遺跡	12
エ	華ノ掌古墳	11
オ	南野米崎遺跡	13
カ	木間池北方遺跡	13
キ	近世墓地	13
ク	飯盛（山）城跡	13
城	遺跡	14
ケ		14
コ		14
国		14
中	中神社遺跡	14
サ	大上遺跡	14
シ	千疊敷遺跡	14
ス	逢阪遺跡	15

三、

残されている歴史のあと

ソウセイ
森福寺跡
竜門遺跡

岡山地区

大正寺—聖観音と梵鐘

忍陵神社
役行者堂

15 15

南野地区

愛宕大神堂夜灯と弘法大師堂

道祖神

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

清滝・逢阪地区

15 14 13

清滝天満宮

三十三箇所巡礼碑

国中神社

16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27

清滝瀑布
逢阪の役行者
照浦墓地—両墓制
法元寺—つどい合う仏像
小松寺跡

田原地区

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

311

312

313

314

315

316

317

318

319

320

321

322

323

324

325

326

327

328

329

28	道標
----	----	-------

四、四條畷神社—創建とその後.....
30

五、府指定文化財

1	忍岡古墳（史跡）
2	伝和田賢秀墓（史跡）
3	伝楠木正行墓（史跡）
4	逢阪の五輪塔（有形文化財）
5	住吉神社の石槽（有形文化財）
6	楠木正行墓のくす（天然記念物）

あとがき

附図 史跡・文化財所在図

一、遺跡のあらまし（I）

発掘調査によって、状況がある程度確認された遺跡

1 岡山遺跡

岡山地区の新池の東南から新池を開むように北側の讃良川を越えて、寝屋川市域に及ぶ広範囲の遺跡で、讃良川床遺跡（旧石器時代の遺物出土）、更良岡山古墳群（古墳の遺構や縄文時代の土器類が出土）、讃良寺跡（白鳳期の寺院跡）を含む、江

戸時代までの遺跡です。

現在までの調査で、部分的にはありますが、集落跡・寺院跡・讃良川護岸（昔は現在より南を流れていた）等の遺構が検出されました。

遺物としては、石鐵・石鍤・石斧・石皿・深鉢型土器等の生活用具や奈良県の川原寺と同じ様式の軒丸瓦が出土しており、また祭祀用具も出土したことから、近畿地方における縄文文化研究上極めて重要な遺跡であるとともに、古代寺院研究についても、貴重な遺跡であるといわれています。



讃良川床遺跡出土 磨製石斧



更良岡山古墳群出土 高杯



讃良寺跡出土 軒丸瓦

2. 砂 遺 跡

国道一七〇号（外環状線）と譲良川が交叉する附近から南東方向砂地区の集落へかけての地域に所在する、縄文時代から江戸時代に及ぶ遺跡で、大阪府立四条畷北高校建設に伴う調査で発見されました。

主な遺構としては、縄文時代の河川跡・古墳時代の土坑・掘立柱建物跡、各時代の河川跡・建物跡等が検出されました。

主な遺物としては縄文時代の土器棺・深鉢・石器、古墳時代の須恵器・土師器・埴輪片、中世の瓦器、江戸時代の「南田原村」と墨書きされている板材・曲物等が出土しました。出土遺物

からみて、この遺跡の約一耕東に所在する譲良川周辺の遺跡との関連性について、今後の研究が待たれる遺跡です。



砂 遺跡出土 壺



砂 遺跡出土 壺

3 奈良田遺跡

岡山一丁目に所在する古墳時代の遺跡で、都市計画街路忍ヶ丘砂線新設工事に関連した調査で発見されました。

主な遺構としては、掘立柱建物跡（二間×三間二棟、二間×二間三棟）・落ち込み状遺構（長さ約一〇尺、巾約三尺、深さ約一尺）・井戸（直径約一、七尺、深さ約〇、七尺）が検出されましたが、この井戸の中に、一辺〇、六尺の檜材で枠組みされた方形の井戸がほぼ完全な形で残っていました。主な遺物としては、井戸の底から土師器壺・甕・須恵器壺・甕・滑石製白玉等が出土しました。

奈良田遺跡出土 壺

奈良田遺跡出土 壺

坪井遺跡出土 皿

坪井遺跡出土 瓦器碗

4 坪井遺跡

JR忍ヶ丘駅北側のJR線路沿いに所在する鎌倉時代末から室町時代初期の遺跡で、JR学研都市線の複線・高架化工事に伴う調査で発見されました。

主な遺構としては、集落跡・井戸・溝等が検出されました。特に井戸は素掘りの外に石積みの下段に桧板の曲物を四段に積上げたもの等あわせて七基ありました。

主な遺物としては、灯明皿・羽金・大壺・下駄・砧・木簡等や、弥生時代の紡錘車・土鍤、古墳時代中期の円筒埴輪の破片も多量に出土しており、このことからみて、この附近には過去

に古墳が築造されていたが、古墳消滅後庶民の生活の場になつたもので、当地域の移り変わりを知る上で貴重な遺跡です。

5 忍ヶ丘駅前遺跡

JR学研都市線忍ヶ丘駅を中心とした、南北約二五〇㍍の範囲に所在する遺跡で、学研都市線の複線・高架化工事や駅前整備事業等に伴う調査で発見されました。現在も周辺を調査中ですが、古墳時代から室町時代に及ぶ遺跡です。



忍ヶ丘駅前遺跡出土 犬形埴輪



忍ヶ丘駅前遺跡出土 人物埴輪

現在までの調査では、掘立柱建物跡・井戸（素掘り、石組、桧製曲物を積上げたもの、石組の下に曲物を組合わせたもの）等の室町時代初期の遺構が多数発見され、また、人物埴輪・犬形埴輪・土師質皿・滑石製石鍋・席編具・草履状木製品・墨書きされた呪術木簡等の遺物が出土し、長い期間にわたっての居住跡であることが明らかになりました。

6 岡山南遺跡



岡山南遺跡出土 壺



岡山南遺跡出土 家形埴輪

J.R.忍ヶ丘駅南東の府道枚方富田林泉佐野線バイパス道路沿いに所在する旧石器時代から江戸時代にかけての遺跡で、バイパス道路新設工事に伴う調査で発見されました。

主な遺構としては、竪穴式住居跡・掘立柱建物跡・方形板枠井戸・大溝等が検出されました。

主な遺物としては、石鏟や、深鉢・甕・壺・高坏等の土器、近隣では始めての切妻造家形埴輪（五本の堅魚木がある）のほか、朝顔形、円筒、衣蓋形等の埴輪類や、方形板枠井戸の底から黒色土器（外面底部に墨書きられたものがある）・木製の左足用下駄（日本最古ともいわれている）等が出土しました。

7 南山下遺跡



南山下遺跡出土 馬形埴輪

J.R.忍ヶ丘駅南側の線路沿いに所在する、古墳時代から江戸時代にかけての遺跡で、J.R.学研都市線の複線・高架化工事に伴う調査で発見されました。

主な遺構としては、古墳時代中期～後期の大溝、鎌倉時代の曲物の板枠井戸・室町時代の瓦を使つた井戸等が検出されました。この瓦を使つた井戸の下には板枠があり、この板に三種類の焼印が押されておりましたが、この井戸は中世の井戸型式研究上の貴重な資料となるものです。

主な遺物としては、土師器の壺・甕・高坏・甕、須恵器

の高坏等の多量の土器類とともに、馬形埴輪・円筒埴輪が出土しました。

特に、馬形埴輪は欠落部分が少なくて、府下で出土したうちでは、一番原形を保つているといわれています。

8 奈良井遺跡



奈良井遺跡出土 手捏ね土器・人形、動物形土製品



奈良井遺跡出土 壺

市立総合センター附近からJR学研都市線西側の地域に所在する古墳時代中期から鎌倉時代に及ぶ遺跡で、学研都市線の複線・高架化工事、市立総合センター建設工事で発見されました。主な遺構としては、掘立柱建物跡・溝・井戸・祭祀場跡が検出されました。また、特に総合センター敷地内で検出された祭祀場跡は、一辺約四五㍍、最大幅約五㍍、深さ約一㍍・五㍍の溝で周囲を閉んだ造構で、溝の中に、馬歯・馬骨あわせて六頭分以上が埋葬されていました。その他土師器や須恵器の土器類とともに、手捏ね土器・人形・動物形土製品・管玉・勾玉等が出土しました。

9 中野遺跡



中野遺跡出土 鳥型木製品

た。



中野遺跡出土 高杯

物跡・竪穴式住居跡・棚跡・溝跡・井戸跡（曲物井戸・石組井戸・石組十櫛形等）等が検出されました。また、主な遺物としては、木製品（舟型・鳥型）・馬歯・製塙土器・韓式系土器・ガラス玉（赤、緑、黄、黒）三〇点・滑石製臼玉一二〇〇個・勾玉等が出土しており、一〇〇〇年以上に及ぶ人々の生活の跡が残されています。

国道一六三号沿いの中野地区を中心とした広範囲の遺跡で、各種の開発事業に伴う発掘調査で、発見された古墳時代から室町時代にかけての遺跡です。

10 雁屋遺跡

雁屋地区から江瀬美町にかけての地域に所在する弥生時代の遺跡で、道路公團職員宿舎・駿生会病院・府立四條畷高校校舎増築工事や下水道埋設工事に伴う調査で発見されました。

主な遺構としては、方形周溝墓が七基（駿生会病院敷地内で四基、四條畷高校敷地内で三基）が検出されました。

主な遺物としては、駿生会病院敷地内から木棺二基・土器棺一基が出土しましたが、このうちコウヤマキ材を使用した四基の棺はほとんど原形で出土しました。また、カヤ材を使用した棺も出土しましたがこれは全国でも数のすくない出土品とい



雁屋遺跡出土 水差し形土器



雁屋遺跡出土 臺



雁屋遺跡出土 木製四脚容器

われています。周溝内からは、木製四脚容器（一木をくりぬいたもの）・木製鋤・朱塗壺等当時の様子を偲ばせる貴重な資料が出土しました。
又、棺とともに人骨も出土しましたが、そのうち六体は全身の骨格が確認されました。

11. 清滝古墳群

清滝地区の西北に所在する古墳時代を中心とする室町時代に及ぶ遺跡で、第二清滝川開削工事に伴う調査で発見されました。

主な遺構としては、円墳二基・大溝・甕棺墓・板枠井戸・掘立柱建物跡等が検出されました。円墳は奈良時代の寺院建立のため、削平されており、主体部を確認できませんでした。

主な遺物としては、古墳周溝附近から、石鎌・ナイフ形石器・石斧・叩石等の石器類・高环・横莖・翫・長頸壺・短頸壺・器台・黒色土器等の土器類が多量に出土しました。また、馬歯一頭分が出土しましたが、本遺跡の西に所在する奈良井遺

跡の祭祀場跡から出土した「馬歯・馬骨」と、時代からみて関連するものと考えられ、古代の馬飼集團の存在を裏付けする資料です。



清滝古墳群出土 横莖



清滝古墳群出土 翫

12. 正法寺跡

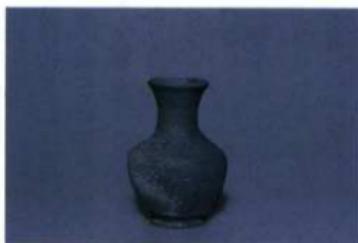
清流地区の西側に所在する古寺院の跡で、跡地と推定される区域に「正法寺」という小字名も残っています。正法寺の創建年代については、數回にわたる発掘調査の結果、西暦六四二年から六七〇年ごろの間と考えられています。

寺の規模は記録が残されていないため不明ですが、遺構や出土遺物から約一万五六〇平方㍍（東西約一〇八㍍・南北約一四五㍍）の敷地内に、中門・東塔・西塔・金堂・講堂等が建てられていた壮大な寺院であったと推定されています。その後、度々の戦乱で被災したため衰退し、江戸時代（西暦一六二三年）

に現正法寺（中野地区）に移って、今日に至っています。



正法寺跡出土 軒丸瓦



正法寺跡出土 水瓶

13. 上清瀧遺跡

上清瀧地区一帯に広がる鎌倉時代から江戸時代にかけての遺跡で、国道一六三号改修工事に

伴う調査で発見されました。

主な遺構としては、掘立柱建

物跡・溝・井戸・落ち込み状遺

構・池跡（埋没した為放棄され

た？）等が検出されました。

上清瀧遺跡出土 下駄

主な遺物としては、土師質小皿・瓦器碗・平瓦・軒丸瓦や、聖観音像・木簡・樋管（上樋、下樋）・下駄・多量の箸等が出

土しました。出土品のうち、聖



上清瀧遺跡出土 木製聖観音像

観音像は小型（高さ約一二七）です

の木の片面に全身

が厚さ約一、五セン

チの正面が刻まれて

おり全国的にみて

も数少ない貴重な

もので、しかも二



体出土しており、同時に出土した木簡にも觀音信仰を表す文字が墨書きされているなど、当地域における寺院や信仰についての重要な遺跡です。

14. 長谷遺跡

逢阪地区の砂溜池（室池と総称されている池の一つ）北側近くに所在する、奈良時代から江戸時代にかけての遺跡でアイ・ランド建設に伴う調査で発見されました。

主な遺構としては、窯跡・石組遺構・道路跡・堀り切り等が検出されました。

主な遺物としては、石鎚（縄文時代）・須恵器・土師器等が出土しました。

遺跡の西、南に隣接する地域は、古来から「ダンゴ石」と呼ばれており、自然石を並べた祭祀場跡と考えられる場所が三か所あり、古代信仰に何らかの係りがある地域とも思われますし、史書にある水室との関係も推測される遺跡です。



長谷遺跡出土 壺



長谷遺跡出土 壺



淹寺遺跡出土 押型文土器



淹寺遺跡出土 羽釜

15. 淹寺遺跡

下田原地区の、国道一六三号と市道辰見谷線の交叉点に近い角堂橋附近から西南方向の地域一帯に所在する遺跡で、住宅都市整備公団施行の開発事業に伴う調査で発見されました。

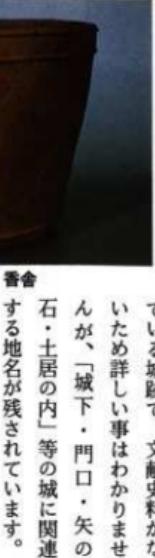
この遺跡からは、縄文時代から江戸時代までの遺構が検出されており、旧石器時代の細石器や、縄文時代早期の「押型文」「山型文」等の土器類が出土しました。このことからみても、今から一万年以上も前から田原地区に道具を使う人が住んでいた事が明らかになった貴重な遺跡です。

16. 八ノ坪遺跡（含 田原城跡）

上田原地区の田原城跡附近に所在する鎌倉時代から室町時代の遺跡で、住宅都市整備公団施行の開発事業に伴う調査で確認されました。

主な遺構としては、濠跡・窯跡・石組井戸等が検出されました。

主な遺物としては、一文銭（寛永通宝—一六八八年）・煙管の吸い口・すり鉢等が出土しました。



八ノ坪遺跡出土 香舎

この附近は、戦国時代田原対馬守が城主であったと伝えられている城跡で、文献史料がないため詳しいことはわかりませんが、「城下・門口・矢の石・土居の内」等の城に関連する地名が残されています。

二、遺跡のあらまし（II）

調査範囲が小規模であつたり未調査のため、状況が確認されていない遺跡

ア 北口遺跡

岡山地区の西側に所在する古墳時代の遺跡で、溝や落ち込み状遺構を検出したほか、須恵器・土師器が出土しました。



四條畷小学校内遺跡出土 韓式土器

イ 謙良郡条里遺構

古代の農地の区画方式を条里制といい、六町四方（約〇、四二平方辺）を南北の区切り線を経て、東西の区切り線を里として、三十六等分する方式で、砂地区的西側全域にその跡が残されています。

エ 墓ノ堂古墳

中野地区の、旧東高野街道沿いにある南野・中野共同墓地が後円部と考えられている古墳時代中期に築造された前方後円墳です。

前方部は、東側の府道附近まであったと推定される東西約一〇メートルの大きな古墳ですが、早い時期から削平されたらしく、その形態は確認されていません。

オ 南野米崎遺跡

JR学研都市線沿いの米崎及び塚脇地区に所在する古墳時代の遺跡で、宅地開発に伴う調査で発見されました。

ウ 四條畷小学校内遺跡

四條畷小学校校舎増築工事

主な遺構としては、堀立柱建物跡・大溝・木棺直葬墓等が検出されました。

主な遺物としては、製塙土器・甌・馬箄・滑石製白玉等が出土しました。

力木間池北方遺跡

南野地区の四條畷南中学校東北附近に所在する古墳時代と鎌倉時代の遺跡で落ち込み状遺構を検出したほか、須恵器・土器・瓦器碗・土師質小皿等が出土しました。

キ 近世墓地

南野地区の住吉平田神社北側の山腹に所在している江戸時代の墓地跡で、墓石が残されています。

ク 飯盛(山)城跡

南野地区から大東市域に及ぶ飯盛山の山頂附近から北の尾根にかけて築かれていた城跡で、戦国時代に近畿・丹波を支配した、三好長慶の居城として知られています。当時の状況を伝える文献がないため詳しい事はわかりませんが、地形や現存する石垣・切り堀等からみて、堅固な山城であった事が想像できます。

ケ 城遺跡

清瀧地区にある上水道清瀧淨水場の北側附近に所在する古墳時代と鎌倉時代・室町時代の遺跡で調査の結果、溝や堀立柱建物跡を検出、須恵器・土師器・土師質皿等が出土しました。

コ 国中神社遺跡

清瀧地区の国中神社（延喜式神名帳に記録されている一〇〇年以上の歴史のある古社で、くなか神社とも呼ばれていた）境内に所在する鎌倉時代の遺跡で、瓦器碗・土師質皿等が出土しました。

なお、参道入口にある凝灰岩の板碑は、家型石棺の蓋で、旧正法寺跡附近の小字名「双子塚」と呼ばれる地域から出土したといわれています。

サ 大上遺跡

清瀧地区の四條畷小学校東側附近に所在する古墳時代と鎌倉時代の遺跡で、須恵器・土師器・瓦器・土師質小皿等が出土しました。

シ・千畳敷遺跡

岡山地区の東側山間部に所在していた、鎌倉時代末から室町時代頃の山岳寺院跡で、山の尾根を三段に整地し、自然石を使って平坦地が造成されていたことが確認されていますが、その後の土砂採集のため、消滅しました。

ス 遠阪遺跡

遠阪地区の国道一六三号沿いに所在する遺跡で、自然の山の側面に露出した大きな岩二箇からなり、古代信仰の対象となつた場所と考えられ、室町時代以後に石仏を岩の間に安置して、新たに信仰の対象としたものと思われます。

附近に弥生式土器片が、散布していたと伝えられています。

セ 森福寺跡

森福寺は上田原地区に所在していた平安時代（？）の寺院と伝えられていますが、詳しい事は不明です。現在、上田原に所在している正傳寺内の薬師如来立像（鎌倉時代初期の作？）が森福寺から伝られたものといわれています。

ソ 竜間遺跡

南野地区及び上田原地区と大東市竜間地区が接する山間部に所在する弥生時代の遺跡で、周辺の開発で発見され、弥生式土器・甕・壺等が出土しました。

三、残されている歴史のあと

南野地区

1 愛宕大神常夜灯と弘法大師堂

愛宕山は京都北西端にあり、比叡山と相対して標高九一四メートル。火防の神として愛宕神社常夜灯が鎮座する。一二丁通が大火に罹った時、ムラ人が建立したと言う。角柱の上に火袋と屋根、高さ二メートル。角柱に「愛宕大神」と記す所から見て、明治初年の建。江戸期なら、愛宕大権現と記すはずである。



2 道祖神

多くの建立はあるまい。地域人の信仰は厚く、新しい供花と香華の祈りが続いている。



ムラの入口

大師堂の始まりは明らかではないが、二丁通が開拓されたのは貞享年間（一六八〇年代）、それから間もなく、十字路にあって病魔を防ぐ塞の神・遮の神が本来の意味であろう。流行病が発生すると、村の入口に小石を積み重ねる地方もある。当市では塙脇にのみ「道祖神」と掲額した祠堂が見られる。関西の道祖神は、自然石を祀るのが一般的といわれるが、信州地方に行くと、男女の双体神像が各地に見られる。男女連れには、病魔も恥ずかしくて近寄れない、との人間の知慧が生んだものであろう。村の入口に立てられるため、道案内の神とされる場合もある。

3. 南野十三仏



人間は死後
三三年を経て
祖先神になる
という。初七
日より七・七
供養の七回
と、百ヶ日・
一周忌・三年
忌・七年忌・十三年忌・三十三年忌法要で成仏し、祖先神となるといわれ、それぞれの法要に十三の如来・菩薩を配する。当市には七基あって、生前に自分の供養を営む逆修仏である。南野十三仏は現在の南野二丁目、弥勒寺の裏側筋に祀られる。

権現川に沿う御机神社、住吉平田神社へ至る中津川・畠・滝の主街道に位置する。「路傍の地蔵菩薩が数体、その東隣の祠堂が大師堂、その東隣が十三仏祠堂である」。この十三仏を「南野十三仏」と名付けたのは、戦前の大坂史学界の重鎮たる平尾兵吾先生と考えられる。この十三仏は天正二十年（一五九二）の造立。像容も美しく、近傍の人の信仰を集めており、朝七時ごろには灯明・お茶を供える善男善女の姿が見かけられる。地蔵、

4. 弥勒寺—舍利吹觀音と十三仏
大師堂、十三仏堂が同一箇所に祀られるため、八月二十三・四日の地蔵盆が、滝木間地区によって盛大に行われている。



權現川筋にあって、高野道から七〇〇歩東。延宝の昔（一六七〇年代）、全身悪瘡に冒された音羽なる少女。両親・当人の嘆き例えん方なし。觀音堂に籠り平瘡を祈って三・七日。夢より醒むれば惡瘡愈えて花の如き顔立ちに立ち直った。尊像を拝するに頬、胸に舍利を現わして、音羽が惡瘡に替らせ給ふ、と。名付けて舍利吹觀音と言う。現在、當時本尊の傍に安置されるが、明治初期までは境内に一字の觀音堂があった。當院鎮座の十三仏は逆修仏で高さ二尺、像容も立派である。

5 住吉平田神社



石段は二三五段、当市で最も多い石段を持ち、毎朝、年配者が清掃に奉仕する清浄な神域である。由緒記によると「寛平・延喜（九〇〇年ごろ）より、飯盛の麓に鎮座し給うも、その往古を知らず」と。

江戸期の文献では住吉大明神、明治十五年南野村誌に「住吉平田神社」と記される。

在村の平田某と呼ぶ人が討死、万事に宣教き人柄ゆえ、平田なる人の御靈を合祀したらしい。烟・中津川・楠公・雁屋・二丁通の氏神。昭和六三年九月、不審火により神殿を焼失したが、氏子の淨財により再建された。

6 御机神社

九二七年の延喜式神名帳に載る古社。記録によれば、権現川上流の宮谷に鎮座、のち清瀧（城）の堂山へ。元禄年間に当地遷座。南野地区の滝木間、塚米、北出の氏神。主神は、素盞鳴尊。



7 龍尾寺

権現川の上流、南野ムラの最上域、高爽地にあって山中は紅葉の名所。寺伝に言う、天

撰社に水神宮と弁財天、石祠に天照大神、奇稲田姫を祀る。昭和四十三年の明治百年記念。昭和六十三年の昭和大修理で地車道も整備された。素盞鳴尊は天照大神を天の岩戸隠れさせた荒ぶる神として防疫の神。出雲八岐大蛇を退治して奇稲田姫を聚り円満な家庭を営む。家庭円満の神。

平の昔に千鶴^{かんづる}あって里民大いに苦しむ。行基が雨降らせ給えと法華經を誦すれば大雨沛然たり。里民大いに喜ぶ。雨後に木の間震れを見れば、龍は三分され、頭と胴体は大東市龍間に、尾は当市に落ちている。身を裂いて里民を救つた龍に感謝し「龍の尾」を寺宝として祀つて龍尾寺と言う。この龍王感應伝説は鎌倉時代ではあるまいか。平安時代には「瀧尾寺」で登場する古寺院。

8 権現の滝



高さ二〇
メートル

五筋ほど急流して滝壺をつく
り、溢れ出
て一五筋ほどを二筋に
流れ落ちる
滝。当地は
九十九谷と通称される山嶽重疊の山々、山の神が仮に姿を現し
た滝と解されている。しかし、一説ではここに住む龍が、千鶴^{かんづる}
時に身を裂いて雨を降らしたと、信仰者は啓示をうけたと語り

と水流、この滝を誰言うとなく「権現の滝」と呼んだのは、古いと思う。ここを流れ下る川を権現川と呼び、流域一三〇町歩の用水源であった。

9 鶯地蔵 部屋・中野地区



当市と寝屋川市を分ける道筋の当市側、清流街道の起点に所在する。享保年間末（一七三〇年代）の河内志には

「鳶門、堀溝村にあり」と記され
る。岡山村

の当地絵図には「甲可莊岡山より十町余部屋村に、うぐいすの塚あり」と記される所から見ると平安時代の当地付近は雜木が繁る箇所で野鳥も多く、最も親しまれる鳶に因み、当地付近を

鶯ノ闐と呼んで、通行人の憩いの場であったと考えられる。当地に祀られる地蔵は鶯地蔵と呼ばれて双体像、像容も風化して定かならざるほどの古地蔵であり、古くから地域の人々に親しまれていた地蔵さんと考えられる。明治までは縁起書もあったらしいが、明治の大火で喪失。鶯闐と呼ばれる美しい名前と、古地蔵さんである所から、郡屋村のみならず、堀溝村を含めた界隈の人々の信仰を集めている。

10 雁 塔



雁塔は高
さ一二〇枚
碑形で正面
に「雁塔」、
側面に施主
寺尾幸助、
寛延二年

に、雁塔由来文一六五文字を刻す。もとは国道一六三号沿いの空地にあったが拡幅工事で、昭和五十年に消防署前に移った。移す時に、雁塔を掘っていると、下層から正保二年（一六四五）

建の古塔婆が発掘され、いま両者とも並立して祀られている。文明年間、一獵師があつて雁を射たら雄雁で首がない。五十日ほどしてまた一羽の雁を射ち落とすと雌雁で、羽交に雄雁の首を抱いていたという。獵師は夫婦愛に涙し、獵師をやめ、雁の靈を弔ったという。

11 大神宮遙拝所



当市に見
られる皇大

神宮常夜灯
は、市役所
裏の旧清滝
街道に沿
う。高さは
台石とも二
七〇枚、表
面に「大神宮」、裏面に「安永七戌戌年十一月吉辰日」の刻字が
幽かに読みとれる。一〇×四枚の細長い境域の片隅に「紀元二
五九四年五月、中野青年団建」の国旗掲揚台あり、同年（昭和
九年）に社殿も造られた。これを修築したのが昭和五十年、中
野地区住民の浄財によるもの。在村のまま伊勢神宮に参拝の信

仰心を満すため、当常夜灯は安永七（一七七八）年に建てられた。

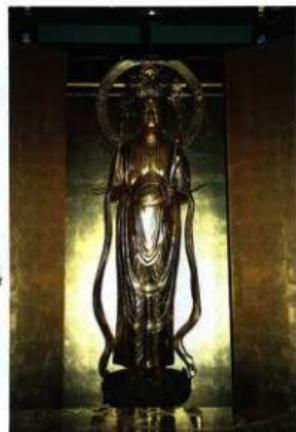
12 正法寺—石造物



正法寺を語ることは四條
暎を語るに等し、と言われたのは戦前の大坂史学会の
重鎮たる平尾兵吉先生である。白鳳期より戦国期まで
清流があり、その後、中野に移って法灯を現在に伝え
る。高さ一五〇センチの六字名
碑は天文五年。高さ一八〇センチの十三仏は天正一八年。灌水石槽は古墳石棺、これらは清
滝旧正法寺よりの伝来物。西国巡礼碑は四基、元禄期から元文
期にわたる。大峯山出三度碑が二基、役行者石像は寛政元年、
下部に二三名の名まえを彫っている。正法寺は石仏の宝庫とも
言えよう。

岡山地区

13 大正寺—聖観音と梵鐘



大正寺と
吳音訓み、
鎌倉期の建
立と伝えら
れる。平安
末期の作た
る聖観音は
高さ一六〇
センチの等身大の木像仏。右手は窟んだ掌の上に柔軟な指を広げた
施無印相、左手は蓮華をかざし、泥沼の俗世間にあっても、観
音の慈悲によって清浄な花を咲かせることを教えている。
梵鐘は音色・形・響によつて、質が決められる。第二次大戦
中にはあっても、芸術品として金属供出から除外された。明治初
期の当地域の識者は、甲可（四條暎の旧名）八景の一として「大
正寺の晨鐘」をあげる。大晦日には百八煩惱除去の除夜の鐘で
馴染まれ、日々は十二時を告げる鐘の音二回、余韻は長く美
しい。宝永八（一七一）年の作。

当社の説明文には「応神天皇、素戔嗚尊、国常立尊、熊野新宮権現、熊野大神を合祀する」とある。忍陵神社の往時を遡れば、九二七年の延喜式神名帳に載る「津浦神社」、赤山と称される坪井地区に鎮座していた。江戸元禄期に当地忍岡に遷座、明治四十四年に砂の馬守神社・大將軍社を合祀して「忍陵神社」を称した。江戸期地図には当社付近を「王の墓」と記してあり、

二九

たちは、合祀に際して忍陵神社と称したものであろう。

音読みして
「にんりょ

か神社」と、鎮座地の字名たる「忍岡」に因んだ名称で呼ばれている。



山伏が集

か。四月七

日と九月七日の山開きと山閉め両日、六人ほどの山伏が頭巾かぶとを被り、錫杖さいじょうと独特な衣装を身につけ、法螺貝はりけいを吹き、般若心経を読経し、行者問答を行つて護摩を焚く行者祭は、一として珍重ならざるものはない。午後二時より五時まで三時間、庄巻はもと山麓の赤山にあり、昭和三十七年に現在地へ。宝曆年間（一七六〇年代）に始まるところである。

清滝・逢阪地区

16 三十三箇所巡礼碑

西国三十三箇所巡礼は室町時代に定着し始め、江戸初期に、紀伊の那智の青巖渡寺に始まり、三十三番の美濃、華嚴寺における。観音菩薩が三十三種に姿をかえて衆生救度するとの伝説に基づく。往時に歩いて巡礼すると、百日間前後を要した。達成した法悦の記念碑が巡礼碑である。

当市には各寺院ごとに見出されるが、当地の四基が最も古い。元禄二年（一六八九）を最古に享保三、享保十年二基が並ぶ。清滝村栗尾、暖門附近の安藤文具店下の道を南へ一〇㍍。水田が開ける中に見出される。

17 国中神社

当市に三式内社あり。一〇〇〇年以上も鎮座地を変えないのは当社のみ。昔はクナカ、今はクニナカと読む。清滝大上山にあって高爽。江戸期文書には「天神宮、大蛇宮」とも記されて、天の神・龍神と解して雨の神。菅原道真は天満大自在天神の称号を号を持つことから、道真を祀って学問の神ともなる。生まれた日は承和十二（八四五・乙丑）年六月二十五日、新暦に改まつて



西国三十三箇所 巡礼碑

18 清滝瀑布

七月二十五日が例祭、生まれた年と天満大自在天神の称号をもらったのが丑年だったから、撫牛が奉納される。



国中神社

国道一六三号沿い、清滝池（新池）の東より南へ入る小道あります。入口に大師堂が建ち、溪流に沿って五〇〇㍍で目的地に着く。一五㍍ほどの滝あって修業の場となる。人には生業上に運不運あり、身体上に病魔の憂あり。これが克服に滝に打たれて一心不乱、突如として神の啓示を受けて、光明を見出す。その光明神の名称を、石碑に刻して神酒を捧げ、シメナワを張つて



19 清瀧天満宮



霧場となす。
清い瀧なるゆ
えに清瀧と称

し、附近の地
名となり、大
きく発展して

大字名とも
なった。

由緒書きもあって、戦国期
の建立であろうか。読み行く
と田中某の氏名が見出され、
家宝として道真像を祀ったも
のと考える。明治四年ごろ、
國中神社に合祀されるが、
「帰りたい帰りたい」の御告
げあって、明治二十年頃に再
び帰座する。旧府道（現国道
一六三号）が出来た時、田中
家は道路沿いの現在地に移転

20 達阪の役行者

し、同家庭に立派な祠堂を建てて祀った。現在は、傍に「清瀧天満宮」の石碑も建って、お詣りも容易になつた。



国道一六三号を登り上った所、鬱蒼と茂る葛あり。その中に
三枚大の巨石が双立す。その間に祀られるのが高さ七〇センチほど
の行者石像。当地の上はもと墓地であったと伝えられ、域内に
は墓石・地蔵・西国三十三所
巡礼碑が建つ。九月七日には
ムラ人は供花供養し、半日を
休むと言う。当地の葛の枝葉
を折ると祟りありとの伝説
あって、真昼とはいえ、薄暗
い。位置は龍王川沿いにあ
り、河川により削られて敷地
が開けたことがわかる。しか
し、何年前に巨石が露出した
か、知る術はない。

田原地区

21 小松寺跡



現在の四条畷カントリーラブ地内。昭和四十年の造成中、柱跡石・軒丸瓦・平瓦など多数出土、往時の小松寺跡と伝えられる。「小松寺縁起」は続群書類從に記載もあり、平安時代の堂宇再建に当たっては、近郊農村たる田原・大坂・甲可・星田の莊官級有力農民五十八人が九十九貫文と米十石を寄進する。四條畷合戦に戦死した和田賢秀の菩提墓も発見された。寺院は戦国期には荒廃、清滝城と呼ばれて土豪の拠る所となる。ゴルフ場は北部は交野、南部は当市の境界地点に位置する。



下田原唯一の寺院で真言宗。大日如来の眞実の言の意から、真言宗と呼ばれる。大日如来は太陽神崇拜から考え出された仏で釈迦の本身ともいわれる。高さ二尺五寸の本尊仏の右側に宗祖弘法大師、左側に舟型光背付き聖観音、不動明王が祀られる。これが法元寺固有の本尊と諸仏であるが、他に田原地区に戸戸期まで存在した上・下田原地区的三真言宗寺院仏を本堂内に安置する。明治初期田原小学開校の寺院として文教の府でもあった。耳病治療の地域内地蔵も著名。住民に密着した寺院として発展して現在に至る。

22 法元寺一つとい合う仏像

下田原唯一の寺院で真言宗。大日如来の眞実の言の意から、真言宗と呼ばれる。大日如来は太陽神崇拜から考え出された仏で釈迦の本身ともいわれる。高さ二尺五寸の本尊仏の右側に宗祖弘法大師、左側に舟型光背付き聖観音、不動明王が祀られる。これが

法元寺固有の本尊と諸仏であるが、他に田原地区に戸戸期まで存在した上・下田原地区的三真言宗寺院仏を本堂内に安置する。明治初期田原小学開校の寺院として文教の府でもあった。耳病治療の地域内地蔵も著名。住民に密着した寺院として発展して現在に至る。

23 照浦墓地—両墓制



照浦墓地 一枚石五輪塔



正伝寺 薬師如来像

下田原地区の照浦墓地を訪ねると、遺体埋葬墓と石塔菩薩提が隣りあっている。昭和五十年ごろまでの「埋め墓」は草茫茫地で、遺体を埋葬して七・七日供養まで御詣りし、その後は隣にある石塔墓で菩提を弔う。前者を「埋め墓」、後者を「建ち墓・詣り墓」と呼ぶ。日本古来の死靈觀では靈肉は別だと考へ方から、全国各地に見られる両墓制である。

現在は「埋め墓」も整地されおり、火葬の普及も加わって、埋葬・詣り墓が合する単墓制へ移行していくことは確実であろう。

上・下田原ムラの立会氏神社で、傍に神宮寺が存在した。永禄年間の六字名号板碑、元和八年の十三仏があることから考えて、西田原村を称した戦国・江戸当初の建立ではあるまいか。境内に府史跡指定の石風呂あり、淨身用の石槽と言われる。長さ一六〇cm、横幅は九九cm、高さ七〇cmほどの巨石を、縁取り一四cmほどを残し、深さ五七cmに削り掘りしたもの。現在は神社内に保存されているが、それ以前を考えると、どこに存したのか。七〇〇年の歳月に耐えた石槽として感銘せられる。

24 正伝寺—薬師如来

薬師如来信仰の厚き所、そこは地高く、空氣清く、近くに薬草多しと言われる。標高一七〇mの上田原の融通念佛宗正伝寺境内一室に祀られる。当薬師さんは一木造りで高さは二尺、右手を与願印、左手に薬壺をのせて蓮華座の上に立ち、両脇に日光・月光両菩薩を配する。写実性と剛健さに富み、人間味にあふれる鎌倉仏である。七月八日を薬師さんの縁日と定め、上田原の森山・佐水地区の三十余の人たちが夜九時から集まる。和田住職の説経に合掌し、無事を祈り法悦の御酒を頂いて帰路につく。

25 住吉神社

上・下田原ムラの立会氏神社で、傍に神宮寺が存在した。永禄年間の六字名号板碑、元和八年の十三仏があることから考えて、西田原村を称した戦国・江戸当初の建立ではあるまいか。境内に府史跡指定の石風呂あり、淨身用の石槽と言われる。長さ一六〇cm、横幅は九九cm、高さ七〇cmほどの巨石を、縁取り一四cmほどを残し、深さ五七cmに削り掘りしたもの。現在は神社内に保存されているが、それ以前を考えると、どこに存したのか。七〇〇年の歳月に耐えた石槽として感銘せられる。

26 月泉寺と墓地



住吉神社



月泉寺墓地



田原城跡

人呼んで月泉寺墓地と呼ぶ五輪塔三基が建つ所がある。上田原の集落はずれの畦道を山中へ。古堤街道より三〇〇坪ほどだろうか。五輪塔の建つ礎石は、全て塔地輪の四角石五十程を積み重ねたもの。これだけの礎石を持つ五輪塔の林立を思う時、戦国時代の当地支配者・田原対馬守の墓地と語り伝えるのも無理はない。田原対馬守の位牌は月泉寺に祀られる。月泉寺は明治十一年に寝屋川より移植して来た禅宗寺で、その前身は千光寺と呼ぶ真言宗寺院であった。古くは千光寺墓地と呼んでいたものであろう。

27 田原城址

田原城跡を明記するのは天保十五年（一八四四）上田原村明細帳（現在の市勢要覽に相当）。「古城跡、字城山、老ヶ所。但し、凡そ弐百年以前の永禄の頃、当地守護田原対馬守様御城跡と申伝候」とあって、現在の「八ノ坪」の山頂を言う。土地の人は「住吉さんの山」と呼ぶ。地籍図字名は「土居の内」、土居の内とは城跡を意味する。周囲を天野川上流に囲繞され、標高一五〇坪の水田から三〇坪聳立する。門口、三の門、隠井戸、本丸の城郭名を今に残す典型的な丘城と言えよう。

28. 道 標

当市の主要街道は東西に清流街道、南北に東高野街道、河内街道が交錯し、他に家並みを繋ぐ小道と、寝屋川水運への里道があった。このうち、道標を持つのは清流街道に多い。山系のためであろう。

清流街道 西部低地から逢坂を経て、田原・大和への道。

①起点の藪屋の自然石道標：池村酒屋前に「やハたみちすじ。これより東清流越」。裏面に「延宝三乙卯年七月五日（一六七五）」とあって、江戸前期に遡る最古の道標。



清流街道 道標①



清流街道 道標②



清流街道 道標⑤

③清流街道は清流川に沿う。上清流で、直接に清流峠への道と、逢坂ムラの家並を通るようムラの北側を廻る道とに二分されていた。この分岐点に「右いが・いせ・なら。左おおさか」と、越えの自然石道標が建つ。国道一六三号改修工事にともない、この道標は現一六三号沿いの旧家の庭に、大切に保存されている。

④逢坂・清流峠より田原へ移

らんとする所に、地蔵道するべ
が立つ。右側に「東なら・西大
坂・道下かたのえ」の交通安全
祈願の道標が建っている。

⑤田原へくだり、戒川沿いに
珍しい墓塔型の道標があつて、
中央に「右なら郡山・左やまし
ろ道」、右側に「弘化二歳巳七月
上流（上旬）左側に「家紋・西
川大吉」、台石に「油若中」と刻

②東高野街道交差点・高さ一三〇センチ角柱に「右清流街道、すぐ東高野街道」。隣る石碑型道標には「右いせなら、南かうや」と、石碑型道標が古い。これは清流街道が、伊勢・奈良へと通じていたことを示す。

されてい。弟子の若中が、故西川大吉の善行碑として建立したものであろう。

東高野街道 京都と高野山を結ぶ古道四尺幅の大きな道であったためか、道標らしきものは、清滝街道との交差点、前項の②の箇所に見られるのみ、曲折する道を直線道路に直したのは昭和二年であった。

河内街道 枝方道とも呼び、寝屋川市から讃良川を越え、砂村に入らんとする所に、

①高さ一五〇センチの角柱があつて「正面に、右北河内街道堀溝浜、西側に河内街道枝方道」、記年はないが明治三〇年代の物であろう。

②「左河内街道」の高さ一一〇センチの角柱碑が妙法寺前に建つ。

道は砂から、現在の駿高前を通つて、津之辺の老人ホーム前か

ら住道へと向かつていた。

八丁堤道 岡山・砂ムラと堀溝浜を結ぶ里道を呼ぶ。寝屋川市と界する岡部川堤に「右八幡宮道、左大坂道、弘化四年九月上旬、大峯山上三拾三度先達基○○」の高さ一一〇センチの道標あり、大峯山修行三十三回をなしとげた喜びを語りかけるよう立っている。

古堤街道 田原から大東市龍間を経て、中垣内を結ぶ大和街道である。田原住吉神社と府県道境界碑の所に一三〇センチの角柱碑があつて「古堤街道、明治三十九年五月建立大阪府」の道標が立つ。これは修築記念の碑である。当市の道標は以上の九点のみである。



河内街道 道標



古堤街道 道標

四 四條畷神社—創建とその後



「今も雲居に声するは四條畷のほととぎす　わか木の楠のかぐわしさ　ほまれや人に語るらん」と、戦前の人々に愛唱された「四條畷」が作詞されたのは明治二十九年五月、四條畷神社鎮座後、六年を経た時であった。神社の母胎となるのは、雁屋の「楠塚」、この四二坪ほどの墓域が一町歩（三〇〇〇坪）へと拡張され、巨石碑が建立されたのは明治十一年一月五日。この小楠公墓所に神社建設の議が起つたが、平地では景観よろしからずとして、墓地の東東一〇〇

○筋の飯盛山麓に神社建立の議が進んだ。大阪府知事西村捨三が上京、内務省へ上申書を提出したのは明治二二年六月、同月には「内

格官幣社に列せられた。

別格官幣社とは官・國幣社の一つであって、政府は明治四年に歴代皇室の尊崇顯著だった神社を官幣社、地方崇敬の中心たる神社を國幣社とし、明治五年には更に、国家に功労顯著な人を祀った別格官幣社を設けた。戦前の官幣社は九三、國幣社は一〇四、別格官幣社は二八。これを官社と総称し、国家的支援をうけた。

この四條畷神社の存在は、当地甲可村に大きな変化を与えた。明治二十八年の四條畷駅、明治三十六年の府立四條畷中学校、大正十四年の四條畷警察署、大正十五年の四條畷高等女学校。界隈の官公庁が「四條畷」を冠した時、神社所在の甲可村の村名改称に及び、昭和七年四月より四條畷村を称した。

「小楠公社創立規約」が下達されている。

委員任命証を見ると、「小楠公神社建設幹事ヲ嘱託ス。明治廿二年七月廿三日」とある通り、小楠公神社名称のもとに出発し、工事半ばより四條畷神社と改称され、十二月十六日に、別

戦後は国家的援助がなくなった。しかし標高七十㍍の高爽の地、春の桜見物など風向明るいな旧蹟となり、大晦日から年始の賑わいは、市民の聖域として蘇った。

五、府指定文化財

大阪府が貴重な文化財として指定しているもの

1 忍岡古墳（史跡）



いる前方後円墳です。

現在、忍陵神社本殿の建っている場所が、後内部の墳頂部分で、後内部の直径約四五尺、高さ約六尺、前方部は神社北側に隣接している大正寺の鐘楼附近まで及んでいたと推測される全長約八〇尺の古墳です。

この古墳は、昭和九年の第一室戸台風で倒壊した神社本殿再建時に偶然「堅穴式石室」が発見され、調査の結果確認された

岡山地区の
忍陵神社境内
に所在する古

墳時代前期
(西暦三〇一
年～四〇〇年

ごろ) の築造
と推定されて

ものです。石室内部は、発見以前に盗掘されていたため、石製品(劍・鍔形石——いずれも装身具)や鉄製品(劍・斧・刀子)等の破片だけで、築造された当時の様子や、葬られた人についての資料となるものは有りませんでした。

この石室は、地許自治会の協力で覆屋が作られて、立派に保存されています。

2. 伝和田賢秀墓（史跡）



南野地区の塚脇バス停前にあり、楠木正行とともに四條畷の戦で討死した南北朝時代の武将和田源秀とともに、和田賢秀はまた和田源秀ともいわれています。天保二年（一八三一）に建てられた「和田源秀戦死墓」裏面に「昔とへば、すすき尾花の、あらし吹く」と刻された碑が現存しています。

また、昔から「歯神さん」として、歯痛を治す神様として信仰されてきました。

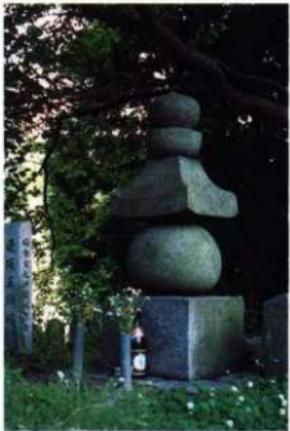
なお、墓域が地許有志によって現在の広さに拡張されたのは明治八年（一八七五）で、墓域にふさわしい巨大石碑（一・五尺角、高さ四・八尺、台座を含めた高さは七・五尺）は、隣接する大東市童間の山中から切斷に五か月、運搬に一年五か月を要した自然石で、明治十一年（一八七八）に建てられました。碑の文字は明治政府高官、大久保利道の揮毫です。

雁屋地区にある南北朝時代の武将楠木正行の墓で、楠木正行が四條畷で戦死後、最初の供養碑が建てられたのは正長二年（一四二九）でした。その時左右に植えた二本のくすの木が成長するにつれて一本になり碑を包んだと伝えられており、その後天正十二年（一五六八）に建てられた小碑と文化六年（一八〇九）に建てられた碑が現存しています。

3. 伝楠木正行墓（史跡）



4・逢阪の五輪塔（有形文化財）



逢阪地区の、市道逢阪生駒口線沿いに建っている（昔は現在地より西に建つていました）高さ一、八尺の、花崗岩で造られた五輪塔です。五輪塔は、密教において創始された供養塔で、上から空・風・火・水・地を表す五輪の姿をとっています。

おり塔のもつ歴史を物語っています。

この五輪塔の地輪に延元元年（一三三六）の年号が刻されており塔の歴史を物語っています。

5・住吉神社の石槽（有形文化財）



上田原地区の住吉神社境内にあり鎌倉時代に、淨身用として造られた石製の浴槽といわれています。長さ約一、六尺、幅約一尺、高さ約〇、七寸の花崗岩に、長さ約一、三寸幅約〇、七七寸深さ約〇、六寸のだ円形に彫りくぼめられ、底に一か所小さな穴をあけて、水抜き用にしてあります。湯は、別にわかして入れたもので、同型の石槽は

大阪市の大天王寺にもあります。

この石槽は珍しい石造遺物です。

6 楠木正行墓のくす（天然記念物）



雁屋地区

の楠木正行
墓地にある
くすの木
で、正長二
年（一四二
九）に楠木
正行の供養
碑が建てら
れた時、その両側に植えたくすの木が成長するにつれて、碑を
包むように一本になったと伝えられています。

樹合五六〇年ともいわれ、幹廻り一二二尺、枝張り径四〇尺を超
える大木です。

あとがき

教育長室には三十号の古代正法寺の復元図をかかげておりますが、この絵はかつての発掘調査の結果をもとに、一三五〇年前の創建時の姿をあらわしたもので、飯盛、清瀧の山々を背景に、南大門・中門・東西の塔・金堂・講堂と、みどりの中にたちならび、壯麗な姿をみせています。

この絵を描いて下さった片山長三先生は、昭和二十五年に本市の岡山新池北の台地で、繩文時代の遺跡を発見されていました。昭和四十年以降は開発に伴う遺跡の調査が次々と行われ、原始時代から近世に至るまでの数多くの遺跡・遺物の発見がありました。

このたびこれらの歴史遺産をひろく市民の方に知つていただき、ひいては郷土愛へとたかめていたたく事ができたらとの思いで、簡潔な解説と写真で紹介をいたしました。

本文中の三、残されている歴史のあと、四、四條畷神社——創建とその後——は山口博士に執筆をわざわし、遺跡のあらまし、二と五、府指定文化財の稿は歴史民俗資料館長の上本眞巳氏が担当いたしました。また題字は、歴古文化研究保存会田

伏呂三氏に執筆して頂きました。

市内の主な遺構につきましては、かつて歴古文化研究保存会が現地に石標を建てて下さっています。また、この書とともに「四條畷の史跡あんない」を発行いたしましたので、共にご利用いただきますれば幸です。

教育長 櫻井敬夫

参考資料

はるかなる日々

四條畷市史
四條畷の史跡あんない
四條畷市・四條畷市教育委員会発行

四條畷市遺跡・文化財あんない

四條畷市・四條畷市教育委員会発行
畷の歴史、畷の文化財

四條畷市教育委員会発行
畷古文化研究保存会発行

四條畷の古跡
四條畷の古代史発掘

四條畷市教育委員会発行
四條畷市の遺跡
畷古文化財発掘調査叢書(No.1-No.2)

四條畷市教育委員会発行
四條畷市教育委員会発行

——四條畷の史跡・文化財

編集 四條畷市立歴史民俗資料館

発行 四條畷市

四條畷市教育委員会

平成二年七月 発行

印刷 備北ようせい

史跡・文化財所在図

